

保育活動における幼児のメディア・リテラシーに関する研究

船曳 明子^{※1} 稲岡 裕世^{※1} 永井 逕一^{※1} 新田 恵子^{※2}

竹内 淑^{※2} 水上 希^{※2} 金城 洋子^{※3} 堀田 博史^{※3}

(^{※1} 園田学園女子大学短期大学部附属学が丘幼稚園、^{※2} 園田学園幼稚園、^{※3} 園田学園女子大学)

1. はじめに

情報技術の発展により、幼児の生活も例外なく多メディア化の様相を帯びている¹⁾。一方、幼稚園や保育園での利用は、テレビ・ビデオ・パソコン等のメディアの利用全般に対する慎重な姿勢が、1990年代以降の特徴となっている²⁾。家庭とは逆に、保育でのメディア利用の慎重論の理由は様々であるが、その効果を明らかにした研究が皆無であるのも理由のひとつである。

本稿では、メディア利用の効果を明らかにするスタートとして、保育活動の中で、幼児がどの程度メディアを使いこなすことができ、読み解けるのかに注目した。

2. 実践研究の取り組み

本園は、大学附属であり、大学には数多くのメディア機器が用意されている。そこで在園中にそれらの機器に触れさせたいと考え、1998年より年間8回から10回の園外保育として、こどもコンピュータ教室を設けた。内容はソフトウェアの取り扱いの操作技術を教え込むというのではなく、メディア遊びを通して表現活動の面白さを体験させることを大切に考えている。幼稚園における子どもの活動としては、体を動かす、歌を歌う、絵を描く、ものを作るなどがあるが、それらの活動をより楽しく充実させるための環境のひとつとして取り組んでいる。

本園の保育でメディアを利用するカリキュラムは、大学の施設でメディア機器に触れるパソコン遊びと、本園内で当大学に所属する教員の指導を受けるメディア教室を実施している。パソコン遊びもメディア教室も年長組を対象に5月から2月の期間中、月各一回年間16回の計画で実施している。パソコン遊びでは、グループでデジカメ撮影・絵本ソフト・お絵描きソフト遊び・葉書作りなど。メディア教室では、デジカメ撮影、VTR視聴、カセットデッキ使用、ビデオレター作り、テレビ会議などである。

今年度は、園田学園幼稚園との交流を通して、デジカメで作る絵手紙やビデオレター交換、テレビ会議などで、保育の中でメディアを取り込み、子ども達がメディアで遊ぶ基礎能力、メディア理解をどの程度もち

得ているか(以下、*メディア・リテラシー)を明らかにする。その目的を達成するために、本園ではメディア遊びを通じた表現活動の一つとして保育実践研究をしている。

3. 実践研究の諸例

対象：5歳児 男児19名 女児18名 計37名

日時：9月17日(水) 9:30～10:30

主題：デジカメで遊具や小動物などを撮影する
ねらい：園田学園幼稚園の友達に学が丘幼稚園を紹介するために園田学園幼稚園にない遊具や小動物をグループで相談して撮影する

過程：9月9日に園田学園幼稚園を訪問し、園庭で遊び附属幼稚園間の交流が始まった。園外の人との交流後に絵手紙を出すことが習慣になっていたので、今回はデジカメで幼稚園の遊具や小動物を撮影し、自分の幼稚園を紹介することとした。また、デジカメを身近な用具として、大切にしみ込んで使うことを楽しめるようにした。

内容：クラス全体で、園田学園幼稚園での交流を思い出し、学が丘幼稚園にだけある遊具や小動物を話し合う。デジカメで撮影しプリントアウトしたものを絵手紙にすることを知らせ、6～7人ずつのグループに分かれて相談し撮影する。撮影した作品をグループ毎に発表する。

考察：全員で撮影する遊具等を探索する→グループで話し合う→撮影する→作品を見るという60分の流れの中で、子ども達はテーマを理解し、喜んで撮影していた。しかし、話し合った対象物と、各自がカメラを覗いて撮影したいものに違いが生じた。このことからデジカメを交代して使うことは可能だが、一つのテーマで撮影することの難しさが感じられた。

日時：10月22日(水) 9:30～10:30

主題：音当てクイズを作ろう

ねらい：カセットデッキやデジカメなどのメディアを使って「音当てクイズ」を楽しむ

内容：カセットデッキの使い方を知り、音集め遊びをする。グループで音をカセットに録音する。音当てク

イズの話を聞き、グループ毎にデジカメ、カセットデッキ、パチを持ってクイズの音を取りにいく。スクリーンの前に集まり、クイズをし、何の音かを当てて楽しむ。正解はデジカメの映像で確認する。

考察：クイズに集中し、音を聞き分けようとする意欲は十分であった。グループの活動として、相談してクイズを作る楽しさを通して、注意深く音を聞くという経験を深めることにつながった。この時期になると、デジカメを説明なしで使いこなしていた。

日時：11月5日（火）9：30～10：30

主題：ビデオで自分の絵画を発表しよう

過程：10月20日に芋掘り遠足へ行き、21日に遠足の絵を描いた。自分の作品で何を描いたかをビデオで説明し、その一部を園田学園幼稚園のビデオレターに取り込むことにする。ビデオ撮影は手ぶれが大きい為、三脚で固定して行うことにする。

ねらい：自分の作品の説明をする。

友達の発表をビデオ撮影する。

内容：ビデオで自分の絵画作品を紹介する。友達の作品をビデオに写るように持つ。友達の発表をビデオで撮影する。以上の活動をクラス全員で、交代しながら行った。

考察：マイクを持って発表することはテレビの影響もあるのか、恥ずかしがりながらも全員が自分の絵について話することができた。ビデオ撮影をする時には「よいー、きゅう！」「カット！」と、どこで覚えたのか口々に言い合っていた。画像を合わせることは、理解できている子と、ただボタンを押すだけの子と様々だが、ビデオを撮影していることは理解できていた。機器を使いこなすことより、自分の作品を紹介することに重点を置いたので、そのねらいは達成できたと思う。

4. 考察

デジカメの操作では、撮影するボタンのみを教えてスタートしたが、子ども達は撮ったものを見たいと再生する機能を見つけて、広めていった。繰り返し使ううちに理解できた。絵手紙を作るときに、グループで話し合っ「人に知らせたいものを撮影する」と決めていても、デジカメを持った時に「人に知らせたい」という気持ちより「自由に撮影したい」気持ちが強くなるようである。グループで相談する→写す→写したのから必要なものを選ぶ→絵手紙を作成する、という流れの中でテーマを一つに絞り込むのは難しかった

ようである。絵手紙作成などテーマを決める時は、グループで相談しながら自由に撮影し、全体で画像を見て再度撮影する活動を繰り返すことで、楽しんでテーマに取り組めるのではないだろうか。

カセットデッキの使用については、「きく・ろくおん・とめる」などの文字が読めなくても、色やマークにより使いこなすことができた。日常生活において「聞く」ことの大切さを改めて感じさせられた。

ビデオ撮影は画像と音声の合体であるが、子ども達にとっては、テレビの世界と重ねあわせているように思われた。被写体になった時は、アナウンサー気分で自分の思いを伝えようとし、撮影する時は監督になり相手に指示を与えていた。三脚で固定していたせいもあるが、画面を動かすより相手を動かそうとしていた。ズームを知らせると、繰り返し画面の変化を楽しんでいた。

ビデオ撮影の再生を見る時は、画像の写りでなく、自分や友達が写ることに興味を示し、自分達が画面に登場することに楽しさを感じていた。

ビデオレターを園田学園幼稚園と交換し、内容は楽しめたが、興味を強く示したのは自分達が発信したビデオレターであった。

子どものメディア・リテラシーは、目的に応じて各メディアを使いこなすことは無理であるが、興味のおもむくままに自分中心で関わっていた。高価な教材ではあるが、遊びとして楽しみながらメディアに慣れることが幼稚園でのメディア活動ではないかと思う。

5. 今後の課題

今年度は、園田学園幼稚園との交流を通して、デジカメで作る絵手紙やビデオレター交換、テレビ会議などで、保育の中でメディアに取り込んだが、幼児期の子ども達は、メディアに対して臆することなくかかわっていた。遊びの中で使用する環境がその力をつけているのかもしれない。

今後は、様々な機器を経験することを重視するのではなく、メディア遊びを通した表現活動の一つとして保育に取り組んでいきたい。

また、子どもの興味・関心やメディア・リテラシーについて検討し実践することが必要であると思う。

【参考文献】

- [1] 中野佐知子(2003)、多様化する幼児のメディア利用、放送研究と調査8月号、NHK放送文化研究所、pp46-63
- [2] 小平さち子(2003)、変化する幼稚園・保育所のメディア利用と意識、放送研究と調査6月号、NHK放送文化研究所、pp50-69